

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 9月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4073000608		
法人名	医療法人 牧和会		
事業所名	ピアツァ桜台 グループホーム		
所在地 (電話番号)	福岡県筑紫野市大字常松456番地の2 (電話) 092-919-2566		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成20年8月22日	評価確定日	平成20年9月25日

【情報提供票より】(20年 6月 30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) / 単独		(新築) / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての		1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	700 円	おやつ 昼食代に込み 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月 30日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	67 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人牧和会 牧病院、医療法人徳州会 福岡徳州会病院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体の病院・施設と隣接しており、建物の周りは植木や芝生が植えられていたり、プランターにて野菜を栽培する等して、自然を感じることが出来るように工夫されている。利用者と一緒に庭の手入れを行ったり、野菜を収穫を楽しんだりすることもある。昼間はリビングに集まって、みんなでレクリエーションを行ったり、それぞれ会話を楽しんだり、思い思いの時間を過ごされている。また、独自の取り組みとして、市内に「ふるさと館ちくしの」という市の展示施設があり、そこから昔使用していたような道具類(今は終戦の月なので当時のラジオ等)を借りてきて、回想法を基にした「懐かしい思い出の会」を週2回開催している。昔の懐かしい道具を囲んで、それぞれの思い出話に花が咲く時間を持つことが出来ており、家庭的で落ち着いた雰囲気が漂うホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善項目については、管理者と職員で検討、話し合いを行い、改善できるものや必要と思うものについては、積極的に取り組みを行い、改善を図っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	まず職員が自己評価表に記入したものをパソコンに入力して(記録類は全部パソコン管理のため、いつでも見れる)、それらの内容を全職員で共有し、意見を出し合ったものを管理者がまとめて作成した。まとめたものをさらに職員にフィードバックして、今後に活かしていくようにしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	民生委員や市の職員、利用者、利用者家族等が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらったり、双方の情報交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族が面会に来られた際には必ず声かけを行い、利用者の日々の様子を報告するようにしている。また、直接言いにくい意見や苦情があるかもしれないので、玄関に「ふれあい箱」を設置して対応しているが、今のところ、特に意見や不満は出ていない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人全体にて夏祭りを開催しており、地域の方々が多く集ってきている。また地域の老人クラブの集まりに参加したり、年2回地域の保育所に交流会へ出向いて行ったりしながら、地域の人たちとの交流を図っている。ボランティア等の受け入れも積極的に行っている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族と共に、その人の持っている力を大事にケアを行います」安心して落ち着いて生活出来る環境作りを行います」という理念を掲げ、利用者の不安やストレスの除去に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の引継ぎの時に必ず声に出して読むようにして、理念の共有、実践に努めている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人全体にて夏祭りを開催しており、地域の方々が多数集ってきている。また、地域の老人クラブの集まりに参加したり、年2回地域の保育所へ交流会に出向いていったりしながら、地域の人たちとの交流を図っている。ボランティア等の受け入れも積極的に行っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まず職員が自己評価票に記入したものをパソコンに入力して、それらの内容を全職員で共有し、意見を出し合ったものを最終的に管理者がまとめて作成した。まとめたものを再度職員にフィードバックして、今後活かして行くようにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や市の職員、利用者、利用者家族等が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらったり、双方の情報交換の場となっている。		今のところ、地域からの出席者が民生委員と市の職員であるので、今後は区長や公民館長や地域住民等にも参加してもらうことにより、さらに多くの意見を出してもらったり、ホームの実情を報告しホームをより理解してもらったような会議としていくことが望まれる。

ピアツツア桜台 グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類の書き方や手続きの方法がわからない時等に、市役所に出向いていくことが多く、顔見知りになっているため、担当者との連携は取りやすい状況である。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	前年の評価で改善項目であったが、その後、再度資料をみんなで読み返して、制度の理解につなげた。またその資料は事務所に常備しており相談があった時にはそれを利用して、説明できるようにしている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームだよりを作成して、事務所のカウンターに置いており家族がいつでも見れるようにしている。また、家族の面会時には必ず声かけをし、利用者日々の様子を報告するようにしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満等、直接言いにくいこともあるかもしれないと考え、玄関に「ふれあい箱」を設置して対応している。しかし、今のところ特に意見や不満はでていない。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等による利用者のダメージを考え、極力異動は行わないようにしている。もしも離職等があった場合も、普段から全職員が何でも出来る体制を取っているため、引継ぎで困ることはない。また、新人の職員が入った時には、必ず1ヶ月程度慣れた職員と一緒に業務をしてもらうようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、法人本部にて行っているが、グループホームという特性を踏まえて、なるべく経験を踏んだ人を配置してもらうようお願いしている。年齢や性別等で採用から排除することはない。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育について外部研修で学んできたことを、全職員に伝達講習を行っており、その資料も事務所において、いつでも見れるようにしている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には積極的に参加を促している。職員が交代で参加し、また内部研修についても法人内の教育委員会の研修に代表1名が参加し、その後、定期的にホーム内で伝達講習を行い、情報の共有を図っている。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>最近、近所に小規模多機能型居宅介護が出来たこともあり、市の方へ同業者のネットワークづくりについて投げかけてはいるが、今のところ積極的な交流は行われていない状況である。</p>	○	<p>今後も市へ投げかけを行うことにより、同業者のネットワークづくりを行っていくことが望まれる。近隣のグループホームとの交流を深め、事業者同士協働しながら、質の向上に取り組んでいくことも検討してはいかだろうか。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	いきなり契約ということを行わず、何度か見学等してもらって、利用者が納得した上で入居してもらうようにしている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	本人本位ということとを大事にし、何にでも手を出すのではなく、出来ることは取り組んでもらったり、逆に教えてもらったりしながら、共に支えあう関係を構築している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	それぞれの性格や生活歴等から、本人がどのようにしたいのか、どのような思いを持っているのか等を探りながら、アプローチを行っている。毎日のコミュニケーションの中で、把握は出来ている状況である。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らし続けるための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	カンファレンスの意見を踏まえた上で、それぞれの担当者がケアプランを作成し、計画作成担当者が最終的に目を通す形にしている。家族の意見についても面会時に聞いて、それらを反映させたケアプランを作成している。		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月に1回、モニタリングを行った上で見直しを行い、新たな計画を作成している。状態に変化が見られた場合には、その都度見直しを行うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人にとって、現状、どのようなことが必要なのかを考えながら、馴染みの関係が壊れないようにする等、状況に合わせて柔軟に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況に応じて、元々のかかりつけ医への受診を継続している利用者もいれば、近所の内科受診を希望している利用者もいる。いずれも利用者と家族の意見を尊重した上で支援を行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	段階に応じて本人や家族、かかりつけ医と話し合いながら、対応策を検討しているが、今のところホームでの看取りは行ったことはなく、病院で対応してもらうことがほとんどである。本人や家族にも、入居時にその旨説明している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉かけや対応は、ゆっくりと穏やかに行われており、プライバシーを損ねるような場面は見受けられない。また記録類についても事務所内の鍵がかかる棚で管理している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、それにとらわれず、臨機応変に対応するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員だけではなく、利用者にも配膳や片付け等、それぞれが負担にならないよう出来る部分を手伝ってもらいながら、一緒に食事を楽しむことができる雰囲気づくりが行われている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日でも入浴可能である。また日曜日は併設施設の大浴場での「温泉」に入浴できるようになっている。日頃の入浴の時間帯は一応決めてはいるが、利用者の状況や希望に合わせて臨機応変に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が持っている力を活かして、食事の準備や手芸、庭の手入れ等、それぞれの役割、また楽しみ事として行ってもらえるように支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの希望を聞きながら、散歩や買物等に出掛けている。また時には外食やドライブにも出掛けることもあり、積極的に戸外にでる機会を持っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけることなく、自由に出入りできるようにしている。利用者の状態に合わせて、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、法人全体で避難訓練を行っている。その際、夜間を想定した訓練も行い、いざという時に備えている。またホームの隣に施設があるため、万が一の際は協力も得られる状態になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理は業者が入っており、献立も業者の栄養士が立てたものであるため、おおよそのカロリーの把握はできている。また、食事摂取量をチェック表にまとめたり、積極的に水分摂取出来るように働きかけを行いながら、それぞれの状況の把握に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓や椅子等、一般の家庭で使用しているようなものが置かれており、心地よく過ごせる空間づくりがなされている。また所々に生花や庭で収穫した野菜が飾られていて、季節を感じることもできる。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、好みのものや使い慣れた家具、人によっては仏壇等も持ち込まれており、自宅にいる感覚で居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		